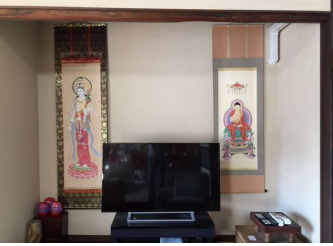




# 極彩色の仏画にうっとり

一條電機店の友春さんが開所お祝いに寄贈



アトリエで仏画を描く一條さん。左下はそらいろデイの床の間に飾られた仏画。



十一面観音と  
釈迦如来坐像



## 訪れる方々も仏様の穏やかな表情にほっと一息

吉沼地区で電気店を営む一條友春（日本画連盟会員・雅号・泉春）さんが、そらいろデイ開設のお祝いにと、このほど仏画2点を寄贈してくださいました。そらいろデイの床の間に飾られた仏画は、一つは十一面観音菩薩像。もう一つが釈迦如来坐像です。いずれも高さ2メートル、幅50センチほどの立派な掛け軸になっています。二つの仏画は、日本古来の染料である岩絵具（岩彩）で描かれたもので、たおやかな表情や身体の線をはじめ衣装のひだなどがきめ細かに描かれています。訪れた方々は仏様の穏やかな表情にほっと一息ついています。

一條さんが仏画を描き始めたのは今から30年ほど前こと。母方の祖父がお寺の住職で仏画を描いていたこともあり、自然と仏教に興味をもったことが始まりだそうです。独学で仏画を学び、最初は墨絵で描いていましたが、その後は岩絵具を使い極彩色の仏画を描いてきました。これまでに描いた仏画は200点あまり。大きいものだと2畳ほどにもなり、市場の相場だと200万円ほどにもなると言います。岩手県や宮城県のお寺に収めたこともあります。桑折町では定龍寺をはじめ、うぶかの里にも寄贈したものが飾られています。

最近では美人画の製作にも取り組んでいる一條さん。現在も毎朝5時には起床。30分から1時間ほどアトリエにこもっては筆を握ります。「仏画は、息を止めて筆の震えを抑えるように描くので結構体力がいるんです。早朝に描くのは一番体力が充実しているから」と笑顔で語る一條さん。電気店は息子さんに任せたとはいえ、簡単な修理や取り付けなどの仕事をこなしながら、日々、ライフワークとなった仏画の制作に楽しんでいます。

## トピックス

### 折り紙でクリスマスツリーづくり

吉沼の折り紙名人安齋さんの手ほどき

吉沼地区のサロンで折り紙名人と言われている安齋光子さんがこのほど、そらいろデイにやってきました。クリスマスイブにちなんでクリスマスツリーづくりに挑戦。スタッフたちも悪戦苦闘しながら、かわいいクリスマスツリーを完成させていました。



### 絶品シュークリーム みんなで舌鼓!!

クリスマスにちなんでそらいろデイでは本格シュークリームづくりのイベントを行いました。この日はスタッフ総出でシュークリームづくりの体制。お菓子作りが特異な娘さんたちも助っ人にやってきました。生地づくりにカスタードクリームづくり。そらいろデイには甘くて香ばしい香りが一杯に広がりました。待つこと3時間。絶品のシュークリームが完成しました。もちろん、おいしくいただきました。

